

森山小学校 「学力向上実行プラン」

- ①聴き合い、伝え合う力を伸ばす支援の在り方
- ②学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立

学力向上推進員	委員	校長:久保尚史	低学年	羽田 涼
寺澤美智代		教頭:藤井誠治	中学年	岡 絵莉菜
			高学年	阿部 智代

校長 久保 尚史

【小中連携または中高連携における共通の取組】

主体的・対話的に学び合う学習の中で粘り強く持続的に取り組む態度を養う。

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

管理職による授業参観や授業研究, 教員からの報告等により取り組み状況の把握を行う。

◎次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○言語や計算等の課題に真面目に取り組む、基礎的、基本的な知識・技能の定着が図られてきている。 ●基礎的・基本的内容が多くなるにしたがって、学力の二極化傾向が見られる。自らの学習状況について児童自身が課題意識を持って取り組むことができにくい。	・相手意識、目的意識を持って「話すこと・聞くこと」ができる。 ・基礎学習に集中して取り組み、言語や計算の基礎的、基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。	・「話し方名人・聞き方名人」の取り組みを継続し、全校体制で実践・発表の機会を持ち、学習の土台である「話す聞く」力を培う。 ・スモールステップのぐんぐんテストやタブレット端末を活用した個別最適化したドリル学習を行う。 ・単元のねらいや学習場面に応じてタブレット端末か具体物の提示かを検討し ICTの有効的な活用の仕方について工夫する	・漢字学習では、筆順・音訓読みに加え、適宜辞書を活用し、熟語、同音・同訓異義語や故事成語等も重ねて取り上げ、語彙を広げる指導の充実を図る。 ・ぐんぐんテストでは、適宜、異分母計算や四則混合、百分率、速さ、図形等も取り入れ、既習内容の掘り起こしを行い定着を図る。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○スピーチ力が高まり、他者の考えにつなげて、自分の考えを話そうとする児童が増えている。 ●課題解決に向けて、必要な情報や知識・技能を選択し活用する力やじっくりと思考・判断し、自分の考えを分かりやすく表現する力は、十分には育っていない。	・互いに考えを伝え合う活動を通して、友達の考えにつなげて、自らの考えを発表することができる。 ・目的や意図に応じて必要な情報を選択し、他者と伝えあうことを通して、よりよい解決法を考えることができる。	・話し合いの観点を明確にしたり手引きやモデルを提示したりと、話し合いの組織化をすすめる、話し合い活動の充実を図る。 ・児童が必要な情報を取り出し、整理する活動の中で、比較・分類・関連付け等、様々な思考に取り組めるよう発問や指示を工夫する。	・条件づけて自分の考えを書く場面を増やしたり、『学習ガイド』を活用したりし、目的に応じて必要な情報を抜粋し、表現の効果を考えて書く力を高める。 ・自力解決の時間確保とともに、練り上げでは、なぜ・どうして等児童同士での問い合いを充実させ、対話的な学びの促進を図る。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にはまじめに取り組むことができる割合が高まっている。 ●家庭学習における丁寧さや苦手な課題への取り組み姿勢、自分でめあてを立てて学習に取り組むことや読書の習慣化に課題がある。	・自分でめあてを立て、主体的に学習や読書に取り組むことができる。 ・苦手な事や難しい課題に対しても、粘り強く丁寧に学習に取り組むことができる。	・「家庭学習の手引き」「自主学習の進め方」をもとにモデルを例示しめあてをもった学習や読書の習慣化の確立を図らせる。 ・外部図書館との連携や読み聞かせ、週1回の読書時間の確保や週末読書の推奨など読書活動を工夫し、読書環境を整える。	・学年便りを用いて子どものインターネット等の適切な利用について理解を深める取組を推進する。 ・復習等にタブレットを活用した個別最適な学びを随時行い、主体的に学習に取り組む姿勢を培う。		

令和6年度 学力向上ロードマップ



